

# 報告

## ユニバーサルデザイン天文教育

### —天文教育普及研究会関東支部会が開催されました—

関東支部委員 高橋 淳（茨城県立水海道第一高等学校）

2007年6月17日（日）、山梨県立科学館および同愛宕山少年自然の家を会場として、天文教育普及研究会関東支部会が開催されました。この日は快晴、白雪を抱いた富士山を望む中、総勢44名の参加者が集いました。

テーマは「ユニバーサルデザイン天文教育」です。宇宙を知ることは、世代や性別、国、宗教、健常者・しょうがい者の別を問わず、誰でも等しく享受できるものであるべきです。しかし残念ながら、今日十分に共有できていない現状もあるようで、特に、視覚にしょうがいがある方々が宇宙を理解することにおいては、適切な資料やプログラムも十分に整理されておらず、「ユニバーサル（誰にとっても）」という言葉からはまだまだ遠い距離にあるようです。そこで今回、天文教育におけるユニバーサルデザインについての情報を共有し、よりよい天文教育普及環境の整備のきっかけづくりをしたいとの趣旨から、本研究会関東支部及びユニバーサルデザインWG、日本プラネタリウム協議会の共催で行われたものです。

さて、その内容ですが、午前中は同館スペースシアターにおいてプラネタリウムを見学しました。同館職員の高橋真理子さんのナビゲーションによる「今夜の星空解説」では、点図版の星図を片手に星の並びを探しました。引き続き上映された「星月夜（ほしづくよ～めぐる大地のうた）」は、視覚にしょうがいのある方の協力を得て制作した副音声がついた番組です。携帯用FMラジオにて副音声を聞きながら、夜空を追いかけました。

午後は、お隣の愛宕山少年自然の家に会場

を移し、多くの事例発表およびレポート、ディスカッションが行われました。午後のプログラムは次のとおりです。

#### 【紹介】

「ユニバーサルデザイン天文教育WGの活動」 嶺重 慎（京都大学）他

#### 【トーク】

「見えない宇宙だからこそ～視覚しょうがいの人たちと一緒に楽しむプラネタリウム」  
高橋真理子（山梨県立科学館職員）他

#### 【口頭発表】

「天文系生涯学習施設におけるバリアフリーアンケート調査」

尾崎勝彦（大阪大学大学院）他

「盲学校における天文教育の一事例」

柴田直人（都立八王子盲学校）

「上を見よう 何が見える？」

林 左絵子（国立天文台ハワイ観測所）

「天プラが行ってきたユニバーサル天文普及」  
塚田 健（東京学芸大学）

#### 【ポスター発表】

「知的しょうがい者更正施設での天文セミナー」 佐藤理絵（小さな天文学者の会）

「科学データ可聴化プロジェクト」

海老沢 研（JAXA）

今回の支部会で、特筆すべきことは2つあります。ひとつは、科学や科学教育に関心を持たれている5名の視覚しょうがい者の方をお招きし、様々な視点からサイエンスや自然を知る・楽しむ方法について議論し、その意義や目指すものについての情報、考えを共有できたということです。しょうがい者と健常者が、分け隔てなく「サイエンス、自然」を

テーマにして議論したということは、天文教育界内外を通じて、おそらくこれまであまり例がなかったように思います（図1）。



図1 視覚しょうがいの方を交えてのトーク

東京から参加の八木陽平さん（JAXA）は、サイエンティストとしての視点・子を持つ親としての視点から、天文教育を語ってくださいました。大阪から参加の久部幸次郎さん（関西学院大学）は、教育者としての立場もふまえ、視覚しょうがい者のもつ宇宙観について熱くお話しされました。東京から参加の藤原晴美さん（NPOハーモニー・アイ）は幼少の頃からの天文ファンで、これまで長きにわたって教育に携わった経験から様々なアドバイスやアイデアをいただきました。県内から参加された榎原佳美子さんは、視覚障害者向け解説放送（副音声）開発に関する調査・研究事業の実験通信モニターをなさっていた方ですが、「宇宙や星の専門家の皆さんが、ご自分たちだけ楽しまずにすべての人にその喜びや楽しみをわかちあおうと思ってくださる、その心の大きさがすごいです。広い広い宇宙の中に蠢いている人間なんて、すごくすごくちっぽけなんだ、でもだからこそ、生きているひとりひとりが奇跡なのだということがわかれば、命がどんなに大切なものかがわかるのに。」という感想をお話くださいました。何よりうれしい言葉でした。

もうひとつの特筆すべきことは、会員以外からも、しょうがい者のための科学教育普及

に関心を寄せる多くの方が参加されたということです。参加された皆さんからの感想を見ても、「知識として天文情報を与えるだけでなく、星の存在を意識することにより生活に潤いができることを意識した活動の必要性を強く感じた。」、「視覚しょうがいの方々の生の声として、宇宙や星空についてどう考えるかを知る機会になりました。物や色の理解の仕方、困っていることなどがわかって大変よかったです。」など、参加した皆さんにとって大変に充実したプログラムであった様子がうかがえます（図2）。会員外の参加者の中には、ユニバーサルデザインWGに早速お入りになった方も少なくありません。



図2 参加者全員の充実感あふれる笑顔

最後に、参加者のお一人で上述のプラネタリウム番組の制作に協力されている市瀬實さんの詩を紹介します。今回の支部会の成果は、すべてこの詩に凝縮されているように思います。生の声で読者の皆さんにお聞かせできないのが本当に残念です。

「僕は今夜散歩に出る

星は出ているだろうか

そう思うだけで心があたたかくなる」

次号で、詳細な報告をする予定です。ご期待下さい。

高橋 淳